

令和5年度 教員による授業自己評価

1. 実施月:令和6年1月

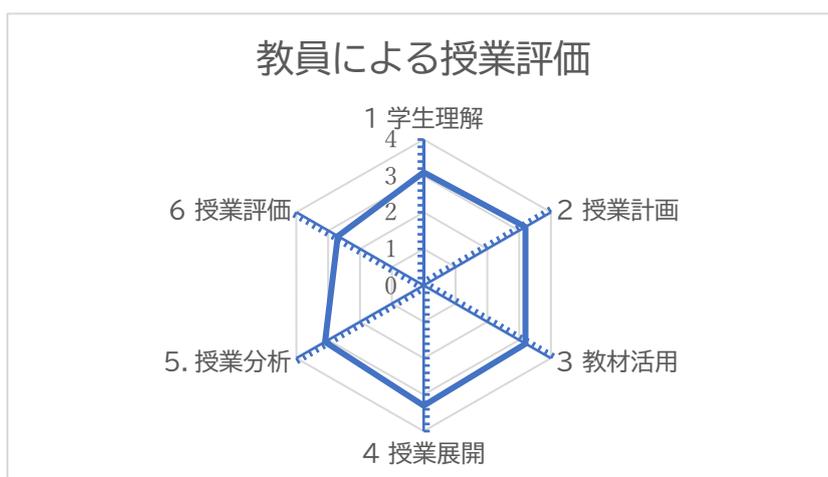
2. 実施対象者:10名

副校長	1
教務主任	1
実習調整者	1
専任教員	7
合計	10

3. 回答数:9名

4. 調査結果:4該当する 3どちらかといえば該当する 2あまり該当しない 1該当しない により評価

	平均評価	最大値	最小値
1 学生理解	3.1	4	2
2 授業計画	3.2	4	2
3 教材活用	3.2	4	2
4 授業展開	3.3	4	2
5. 授業分析	3.1	4	2
6 授業評価	2.7	4	1



5. 教員による学生評価・自己評価を踏まえた今後の課題と対策

- 今年度は基礎看護実習Ⅱにおいて中間評価の提出を求めた。これにより学生も評価の基準を理解でき、自己評価と最終評価のずれも少なくなったと考える。前年度と比較して教材研究に時間をかけることができ、授業(講義)内容のブラッシュアップができたと考える。アフターコロナの時代に入り、今後は学内演習にも力を入れてさらなる技術面の向上を図っていきたい。
- 学生気質に合わせて授業形態を変更し、学習効果を模索し、同科目であっても毎年方法を少しずつ変更している。新カリで対象学年を変更した科目もあり、その効果を検証していきたい。
- 学校で授業アンケートを取っているのので、それを活用したい。また、どのようなことを評価しているのか知りたい。
- カリキュラム改正後の新しい課目は、診断的評価に合った授業方法、評価方法が適切であったか見直し、次年度の授業方法・評価を変更していきたい。
- 特にありません
- 19 担当科目の授業評価は確認できない状況である
- 授業評価が出来ていない
- 新カリキュラムを理解するように努め授業に反映しようと自分なりに実施しているつもりであるが、なかなか教科書・現実を上手に関連できない現状であるため何度も見直し振り返りを続けていく必要がある。
- 来年度より担当科目が変更する予定であり、その学習を深めること